

# 魁PRESS

～大阪の母子生活支援施設についてお届けします～

2026. 4 特別号

## 母子生活支援施設のこれから ～地域の支援拠点として～

大阪府母子生活支援施設部会  
会長 荒井 恵一



近年、児童虐待相談件数の増加や、生活困窮、DV、孤独・孤立など、子育て家庭を取り巻く課題は複雑化・多様化しています。さらに、改正児童福祉法や「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行により、子どもと家庭を支える支援体制の強化が求められています。

このような状況のなか、母子生活支援施設は、母と子が共に生活しながら支援を受けることができる社会的養護施設として、重要な役割を担っています。親子が分離されることなく安心して暮らせる環境の中で、生活支援や子育て支援、就労支援、そして親子関係の再構築支援などを総合的に行うことができる点は、他の施設にはない大きな特徴です。

全国母子生活支援施設協議会では、この間の制度の変化や実践を踏まえ、ビジョンの検証を進めてきました。その中で、母子生活支援施設が担う役割として、①産前・産後から子育て期までの切れ目のない支援、②地域におけるアウトリーチ支援やアフターケア、③親子関係再構築支援の三つの柱が改めて重要であることが確認されています。

母子生活支援施設は、入所支援だけでなく、地域で困難を抱える家庭への支援拠点としても期待されています。妊娠期からの支援やショートステイ、退所後の相談支援など、地域の関係機関と連携しながら、家庭を支える取り組みが各地で広がっています。

しかし一方で、母子生活支援施設の機能や役割が十分に知られていない現状もあります。支援を必要とする親子が適切なタイミングで施設につながるためには、行政や児童相談所、女性相談窓口など関係機関との連携が不可欠です。

母子生活支援施設は、これからも「親子が共に育ち、暮らしを立て直していく場」として、地域の中でその役割を果たしていきます。本紙を通じて、施設の取り組みや機能について理解を深めていただき、支援を必要とする親子を共に支えていく輪が広がることを願っています。

## 行政との勉強会の様子

令和7年11月21日に行政との勉強会を行いました。

勉強会には、福祉事務所等から11名参加していただき、施設職員と併せて約70名の参加となりました。講師として、子ども家庭庁支援局家庭福祉課の胡内氏をお招きし、児童虐待への「早期介入」「初期段階の支援」の必要性や、現状の子育て支援事業について講義をしていただきました。母子生活支援施設として多機能化・高機能化が求められている中で、各施設が地域の現状やニーズと照らし合わせ、どう展開していくか、費用をどう捻出するのか。まだまだ課題が多いと考える機会となりました。

後半のグループワークでは、現状の取り組みや今後の展望について意見交換を行い、行政の方々と協力しあい事業を展開する必要性を再確認することができました。補助金の話や各事業の話をも具体的に知ることによって、講義で聞いた子育て支援事業をより詳しくイメージすることができ、今後の事業展開に活かすことができると感じました。また行政から参加された方の中で、「母子生活支援施設自体をよく知らない為、見学に行きたい」というお声もいただき、母子生活支援施設を知っていただく良い機会をいただいたと感じております。行政と顔がみえる関係性を結ぶためにも、施設からアクションを起こし繋がっていくことが大切だと再認識することができました。

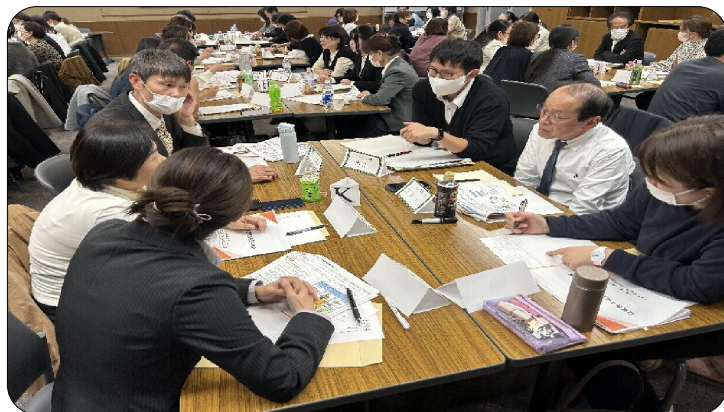


# 参加者の声

～アンケートより一部抜粋～

## 【第一部 こども家庭庁 胡内氏の講演を聞いて】

- 市町村としての役割や予算編成の参考になる話も含めて、とても勉強になりました。母子生活支援施設について、様々な受け入れケースがあることを知ることができ、もう少し身近に考えてみようと思います。
- 母子生活支援施設を最大限に活用する内容をたくさん学ぶことができました。現実には難しい面もありますが、できる事を考えていきたいと思います。
- 数多くの事業があり、地域ニーズをどう把握して施策展開していくか、当市の社会資源へどう活かしていくか考えたいと思います。
- 事が大きくなり、複雑化する前に支援介入する必要があることは、インケアでも地域支援でも同じであると思いました。
- 施設を取り巻く地域の状況やニーズと照らし合わせて、必要な事業の組み立てができれば、さらに地域に根付いた施設となって、行政・民間・地域住民が繋がれる社会になると思いました。
- 母子生活支援施設として期待されている役割が多くあることに改めて気付きました。
- ショートステイの受け入れについて、これまで葛藤があったが、積極的に受け入れていくためにも、研修内容を他職員と共有したいと思います。
- 行政と施設の協同した支援の必要性を改めて感じることができました。



## 【ワークタイム、意見交換の感想】

- 母子生活支援施設へ見学に行った事が無かったので、今回現地で働く方からの実態を聞いて良かったです。行政としては、費用の事を考えざるを得ないのですが苦勞している現場の声を聞く良い機会でした。
- 自立支援計画通りに進まない事もあったり、その中で退所を急がしてくる行政もあると聞いた。今後、母子生活支援施設入所する場合は、施設の職員の声もしっかりと聞いて考えたい。その為にも、こういった勉強会に積極的に参加し、施設従事者の方と関係性を築いていきたいです。
- 他施設や自治体の現状や事業を知る事で、自施設で行う場合の課題やすぐに取り入れられる事を具体的にイメージする事が出来た。行政との横の繋がり関係性を作る事が地域の子供達の有益となる事を学び施設からアクションを起こしていく大切さを感じた。
- 母子生活支援施設の課題や悩みを知る事が出来た。どうしても発表の事を考え行為、ざっくばらんに聞きたい事があったのですが、時間切れになってしまいました。
- 自治体ごとに色々ルールが異なり、地域支援をやりたいという思いを持っていてもお金や人材の面で難しいと感じた。

発行所

〒542-0065

大阪府大阪府中央区中寺1-1-54

大阪府社会福祉協議会 母子施設部会

TEL 06-6762-9001 HP <http://www.osakafusyakyō.or.jp/boshishisetsubukai/>

